

研究のあしあと 7

令和5年度 久美浜小学校研究推進部

令和5年12月

11月16日(木)市保幼小中一貫教育授業研究会における、1年生の生活科の授業が本校4本目の研究授業です。学園の連携部会での事前授業を受け、内容の変更などしながら当日の授業となりました。季節を相手にしていることで難しさがありましたが、子どもたちが主体的に学ぶことができるようにと考えられた淀先生の手立てがたくさん見受けられました。たくさんの参観者の前でも生き活きする1年生の姿を全員で参観できるとよかったなあと感じた授業でした。本当にありがとうございました。

11月16日(木)5校時 校内研究授業
生活科 「あきとなかよし」
1年生 授業者 淀 陽子

研究主題としてのかかわり

校庭や遊び場などに出かけ、落ち葉や木の実を拾ったりそれらを使って友達と遊んだりする中から秋という季節を十分に感じさせたい。そして、地域の秋探し名人との出会い、交流をきっかけに通学路や家庭でも秋見つけをするなど、自分なりに働きかけ生活を楽しもうという思いや願いをもって活動することができるようにしたい。

また、秋の自然物をつかった遊びでは、保育所や上級生を招待することでもっと工夫して一緒に遊びを楽しみ、生活を豊かにすることにつながるようにしたい。

研究授業・事前研究会〈10月20日(金)〉司会・佐藤 記録・岡田(低学年グループ)

授業者より

- ・学園の連携部会にて先行授業実施計画の本時より見直しを図る
- ・リース作りで秋のものを使用
→秋への感動すでにしている
- ・観察時の反応
「秋の素敵」「あそびたい」あり
→秋をじっくり見る時間を取る
- ・子どもから引き出したい
「遊びたい、遊べそう」
- ・本時の展開に迷い
めあて1個?2個?
活動数を減らす?

意見・質問

- ・素材を生かした遊びを考える
→これをめあてにそのみの活動も…?
→発表するときに秋の特徴についても伝える。
- ・工夫して並べる際に遊び始まる(先行授業から)
- ・「遊びたい」「こんな風に遊べそう」発見の一つ?
めあて①がうしろ②にきても?
→前時に②まで→本時で②以降をじっくり
(「遊びを考える」評価)時間的にも厳しい
めあて①を活動とし、②をめあて提示でも…
- ・素材の特徴を理由に遊びが考えられたら良い(評価として)
- ・こどもが「宝物」を選ぶ理由(色、形、大きさ)
→これを活かして遊びを考えられると良い→そこへ促し
- ・遊びや絵や飾り、ファッションショーへの広がりも…
それらを互いに伝え合うことで新たな発見ができる。
→次につながり、考えも深まる
- ・お宝の紹介→導入 秋見つけの振りを軽くでも
「秋のお宝でどんなことができるか考えよう」

参観の視点(1) 主体的に課題をもって探求する授業について

- ・活気があった。思いがあって動いていることが伝わってきた。盛り上がって課題に向かっていた。
- ・何ができるかな、早くしたい様子が可愛く主体的と思った。こんな姿が原点だとか小中高のつながりと言われた。幼児教育との関連でスムーズに入っていけているとも。
- ・見つけてきた物を拾ってきてお宝を大事にしているのが印象的で主体的だった。
- ・お宝紹介で発表したいことに表れていた。見つけた物がお宝と思えて発表できていた。
- ・お宝紹介まで箱の物がお宝となっていて、楽しさがこれまでの活動とつながっていることが伝わってきた。
- ・お宝紹介で見せたくないと思ふ子もいれば、見せたい子もいてとても楽しかった。ボックスに絵を描いて盛り上がったと思う。
- ・環境整備が素敵だった。ネーミングの分類を楽しんでいた。大人もわくわくしてあの机がお宝机になっていた。気持ちがあふれ、話したい気持ちだった。
- ・「見つけた物を触っていいよ」で子ども達がバツと行っていた。匂いをかぐ子もいてやりたい、考えたいとやっていた楽しかった。
- ・自分の席で自分のペースでしている子もよかった。
- ・待風小学校を観て、個別最適としてワークシートに書く時間をどうするかは自分で選ばせたらよいと大久保先生は言われた。ワークシートを次々に取りに行く方がよい。
- ・個別最適化の学び、机に戻って遊んだ後に気づいた子、友達の所で感じた子、取りに戻る子、遊ぶことで学ぶ子と複線で学んでいた。
- ・どうしてそう考えたのかそうしたいのと投げ返していたのがよかった。
- ・動画の最後やってみよう「やったー」の声がいきいきしていた。主体的な姿を感じた。



参観の視点(2) 地域とのつながりを深めることについて

- ・秋の自然の写真とマップを作って残して欲しい。どこで採れるかわかるようにして欲しい。
- ・地域の永井さんからこんなことができる、見せてもらうことで目に入っていないものが目に入る物で宝になり、世界が広がり、楽しいと感じた。
- ・秋見つけが楽しく、永井さんに見る視点を持たせてもらった。こうした人材が必要と思った。
- ・指導者が知らないと深く学べないと感じた。いろいろと知ることができて深まった。
- ・子ども達は、次の季節もこうした視点で見えていくんだろうと思う。人に聞く、見に行かなければと思ったと思う。
- ・1年生で学校近くの宝を見つけて、水源の森に雨が降って森林、田んぼをつくって4年で水質を見て6年で歴史を学んで、なぜ、久美浜は栄えたかがわかり、久美浜を支える人づくりになるなと思った。
- ・秋に種が多い。ねばねばするものが多いのはなぜか。鳥がくちばしにつけて落とすと投げかけてくれた。
- ・授業前に低学年の子ども達の場合、ほぐしは大事と思った。あの歌は、担任のお子さんが歌っていたもの。



その他(今後の課題も含め)

- ・板書 ウェービングマップみたい。(授業で広がっていくイメージ)細かく細かくつなげていくとよいかと思って、広がって整理されていく。
- ・同じようなものからいろいろ気づきになるし、ここからスタートして考えているとわかる。
- ・永井さんの作品例でワーとなってリアクション花丸でした。生活科の授業で何ができる何が必要ないかをぎゅーとしぼり出してくれると思います。冬は冬で違って出てくると思う。来年度につなげるよい機会でした。



〈授業者の振り返り〉

※単元を終えて～事後研で学んだことや新たに実践したこと、その後の学習は？

秋の自然を題材にした学習だったので、身近な自然すべてが学習対象であり、限りなく主体的に活動できる内容をどのように組み立て進めていくか計画や準備の大切さを改めて感じた。特に大事にしたのは“地域とのつながり”を意識して、地域の“秋見つけ名人”として永井さんにお世話になる計画をしたこと。教師自身も地域の秋の自然について教えてもらい実際に見に行くなど、どの段階でどういう出し方をするか、秋見つけに出かける時期も考えながら進めることにはこだわった。そして、“秋見つけの名人”に秋見つけの視点を教えてもらったことで、どの子も「秋を見つけない！」という思いが強くなり、どんどん地域の秋の自然に目を向ける児童が増えていった。導入の段階でこだわり丁寧にすることで、その後の学習活動は児童自身が思いをもって自然な流れで進んでいくことが実践を通してわかった。学習後の児童の感想では、一番楽しかったのは“秋のお宝紹介”で、自分が発見した物を友だちにいっぱい話せるし友だちのも見れるから、という理由だった。秋見つけの活動を通して地域とのつながりだけでなく、友だちとのつながりも楽しむことができたというのは大きな成果だと思う。また、「学習前より、よ～く見るようになった。」「何も思っていなかったけど、秋ってすてきだなって思った。」など自分の成長に気付くことができた児童が多く、事後研でも言われていた“児童が主体的に活動できる環境設定”をこれからも大切にしていきたい。

人とのつながりが、自然とのつながりへ

～今後の研究の方向性について（今回の研究で明らかになったことを踏まえ）～

自分も学びの主体者になって楽しんで授業づくりを

前回の授業研に引き続き、無知ではいけないと思いました。普段気に留めない自然や日常生活に目を向け気づかせるためには、指導者の探究心が大事です。知らないことを自覚し、GTの力を借りて五感をはたらかせることの大切さを感じました。今回は、京丹後市の公開授業で多くのプレッシャーもあったことだと思いますが、秋の自然がだんだん集まってくるのを淀先生がニコニコされながら整理・分類・準備されていました。環境が整うことで、子どもたちの学ぶ意欲が高まると思えたからこそその笑顔ではなかったかなと思っています。何度も変更し貴重な意見もいただき、学園の先行授業も経たからこそその成果だったと思います。この秋の経験が、冬につながり、その先の学びの土台になっていきます。自分の考えに必ず理由づけできる力は、今後の宝物になるでしょう。

また、福富先生の待鳳小学校での学びも活かされていました。「実りの大きい秋」となった今回の授業でした。淀先生、ありがとうございました！